

八重桜・呑川夜桜・呑川の魅力

最近のうれしいことの一つに、東京工業大学・土木工学科 2 年生の「環境計画演習」授業で、「呑川」を取り上げてくださったことです。

吉村千洋准教授の指導の下、30 名前後がこの演習に取り組み、7/19 には発表して下さるそうです。

それに関連して「呑川の会」の活動を知りたいとの連絡が私にあり、簡単な説明をさせていただきましたが、学生の方からも HP を見たとの連絡があり、4/21 の「呑川の会・定例会」を途中からのぞいていただきました。

「呑川」を若い方に興味を持っていただくのはうれしいことで、やがて卒業年度を迎える時に、「呑川」を卒業研究の対象の一つに選ぶ検討のきっかけになればと思います。

さて、前回のレポート「呑川の桜と人との関係」に関して、いくつかの感想が寄せられましたので、今回はそれに沿って・・・

「洗足池」の桜は何とかならないのですか？・・・このご意見に対しては、私は研究不足でなんともご返事できる能力がありません。



この場所は前回のレポートで紹介した洗足池の「桜山」です。数日前(2012/4/22)に行った時は、桜はすでに終わり、すっかり新緑風景になっていました。

この日は大田区主催の「子どもガーデンパーティ」で、私も駐輪場の整備や車進入禁止の指示などのお手伝いに出掛けました。

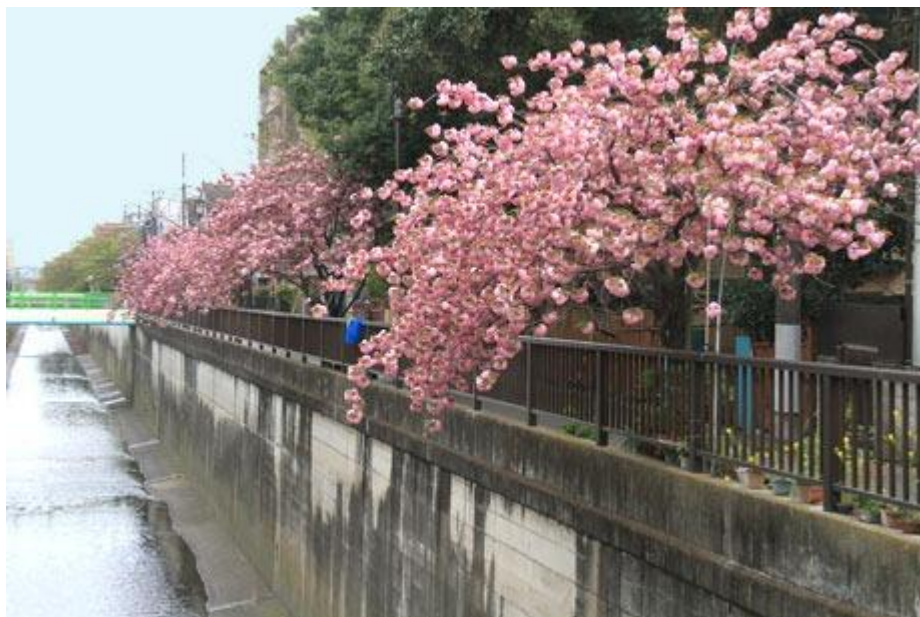
「桜山」では、子どもたちがアスレチックを楽しみ、さわやかな新緑の中で、実に生き生きと楽しそうでした。

ところでこの樹木の多くは温暖化防止「CO2 ダイエット」のため、大森法人会・蒲田法人会・雪谷法人会などが寄贈したものだそうです。しかし、この「桜山」は現在工事が続けられており、桜の若木が5本植えられたそうですが、同時に痛みが激しいもの、倒木の恐れのある桜は伐採されたそうです。今年度はどんな工事が行われるか判りませんが、ここ当分樹木更新工事が続くそうです（大田区の工事です）。

私は植物学や造園学を学んだ訳で無いので、ここがどうあるべきかは判りません。武蔵野の「落葉」広葉樹林も、やがては「常緑」照葉樹に「自然遷移」していくのでしょうか。そういうことと、人による管理をどう調和させていくべきなのか私には判りません。

ただ「ソメイヨシノ」は、原種と違い、人間が品種改良して出来たものですからその寿命も50年前後と短く、病虫害にも弱く、その管理は大変です。そういう「ソメイヨシノ」を「巨樹・巨木信仰」の対象にして、むりやり保護するのは理にかなっているのかと迷います。本来そうでないものを、「人工的」な人間の管理で「巨樹」に仕立て上げ、「樹齢何100年」という「長寿」にむりやり引っ張るのは可哀想で、ただただ伐採していけない、切ってはいけないというのは、「自然保護」とは違うように思えます。

さて、前回の呑川レポート「呑川の桜と人との関係」でも、「問題提起」をしてきましたが、私は学者や研究者でないので、「問題提起」に重点がある訳ではありません。むしろ重点は、「河川愛好団体」の一員として、もっと「呑川」に関心を持って欲しい、「呑川」も美しいところがいっぱいあり、それを知って欲しい、愛して欲しい・・・というところにあります。



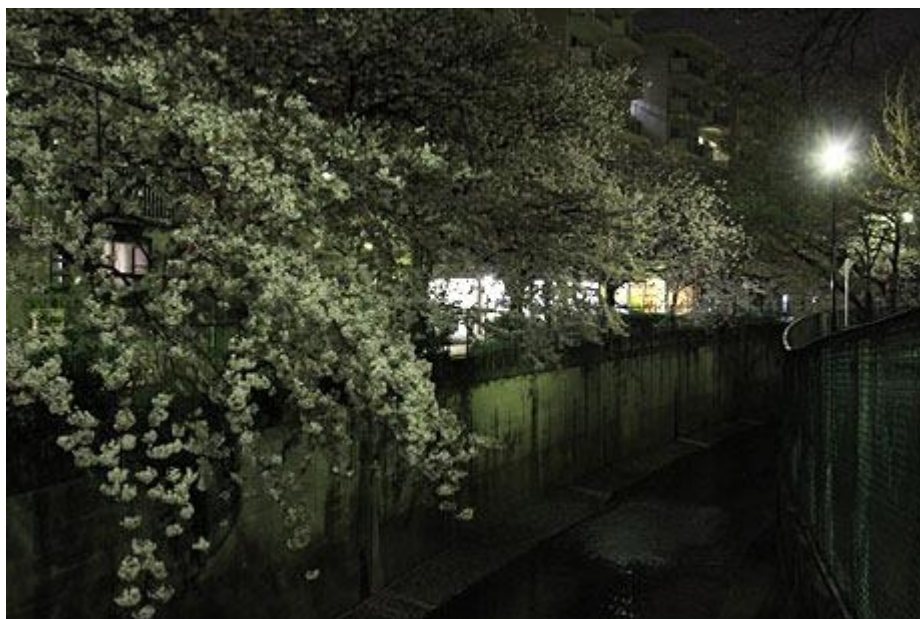
「ソメイヨシノ」が終わった今、呑川沿いの桜は「八重桜」に移っています。ここは南雪谷の「宮前橋」付近ですが、ここには「八重桜」の並木が連なっています。すでに華やかな「ソメイヨシノ」は終わっていますから、とてもよく目立ちます。

しかし「八重桜」の「並木道」は、ここだけではありません。池上地域の「堤方橋」下流には、新しく「八重桜」の並木道が出来ています。ここは大田区の工事区間で、まだ小さい幼木ですが、これからが楽しみです。

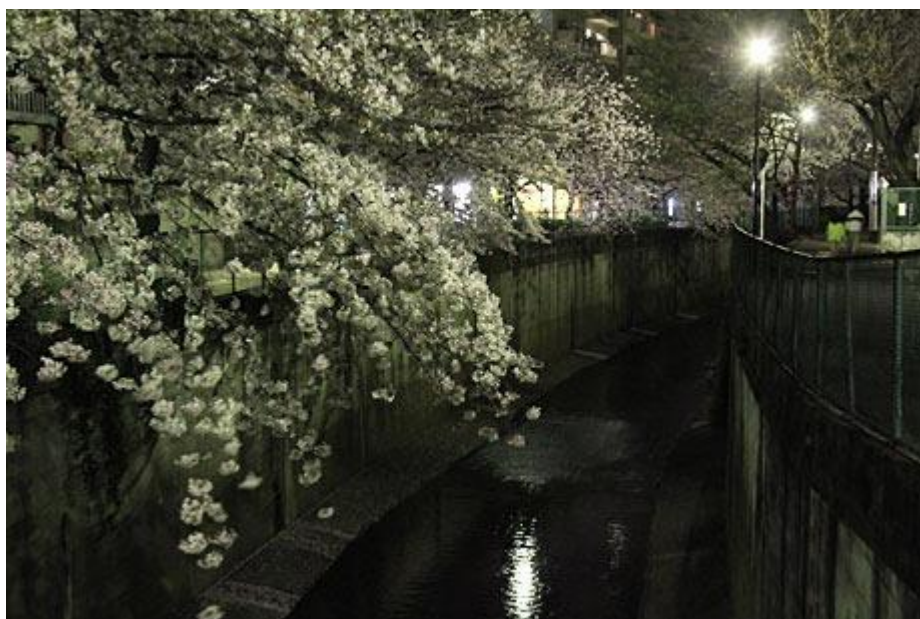
ある方から「今年は忙しくて、桜を見には行けなかった」と感想をいただきました。私も現役時代は同じで、職場の仲間が集まって行う「お花見」に参加するのが精一杯でした。まして「呑川」に、こんなに美しい桜があると思ってもいませんでしたので、今になって多くの人に知って欲しいとの想いです。

また、ある方から「上野に行ってきました」「千鳥ヶ淵に行ってきました」との報告もいただきました。とても有名な千鳥ヶ淵の「夜桜」、さぞ美しかったことと思います。

そこで我が「呑川」の「夜桜」も見てみましょう。



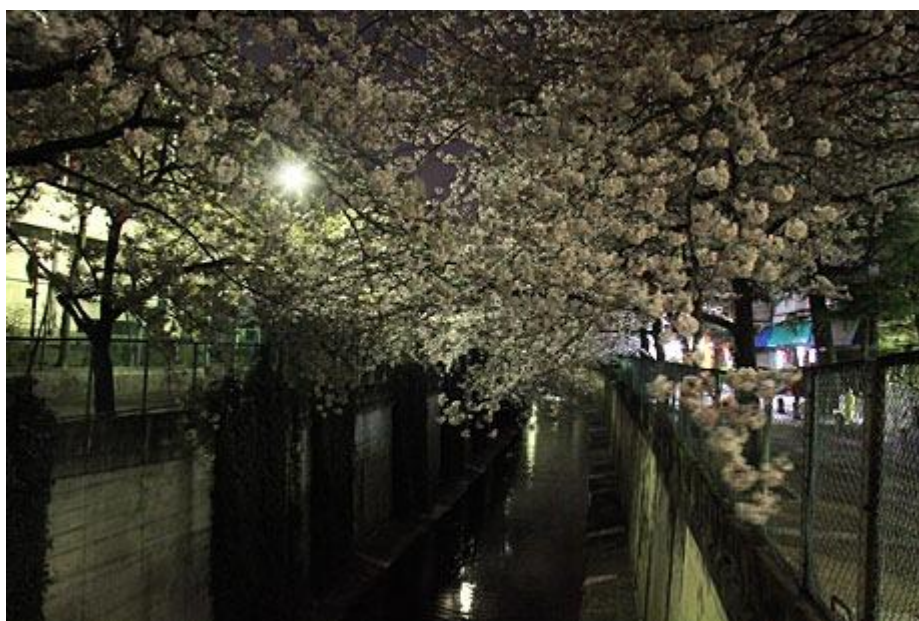
夕食が終わって一段落し、ふらっと「呑川」に出ました。
街路灯に照らされて、満開の桜が目に飛び込んできます。
でも、川面が真っ黒で何か寂しい気がします。



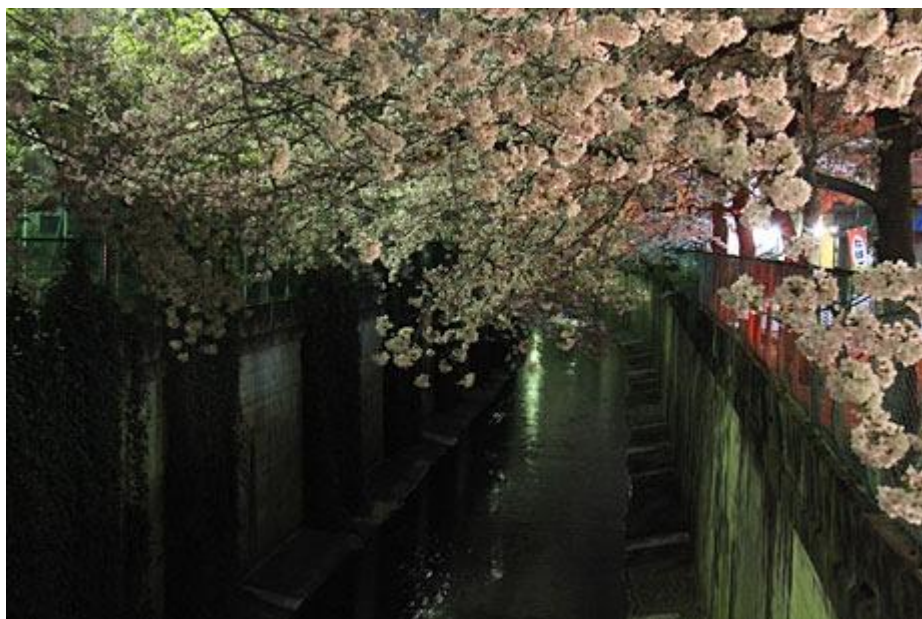
そこで、ちょっと撮影位置をずらすと、今度はなんとか川面に光が入りました。
私たちは桜の愛好家というよりも「呑川」の愛好家ですから、「夜桜」が
写っているだけでは物足りなく、やはり「川」が写っているとホッとしますし、
心が安らぎます。



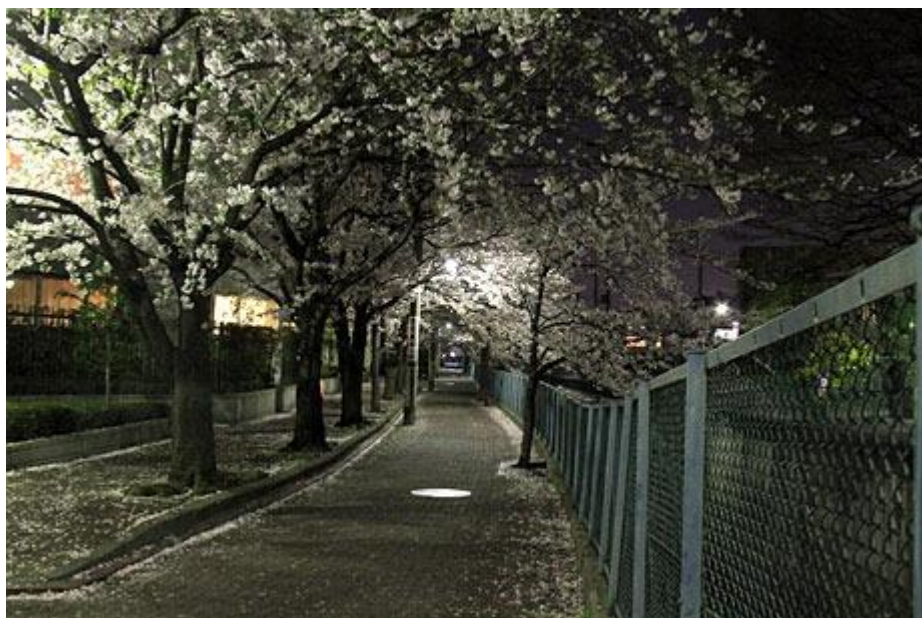
そこで、もうちょっと露出を長くして、呑川そのものが明瞭に見えるようにしてみました。
とてもあでやかになりますが、前の写真の方が「夜桜」らしさが出ているような気がします。



「夜桜」を撮影してよく思うのは、夜の写真は色の無い「無彩色」になりがちで、それならいっそ「白黒写真」でと思うのですが、カラーで写す以上、なんとか色を出したいと思います。
もう一つの悩みは、桜の咲く時期は冷たい風が予想以上に強く、上の写真のように花が揺れてしまうことです。



そこで、人工的な光の力を借りることにしました。
ちょうどタクシーが通りかかったので、これがチャンスとシャッターを切り、
テールランプの光がソメイヨシノの
花びらをピンクに染めてくれました。
同時に、呑川のフェンスも赤くなりました。
「ああ、きれいだなあ」と感じる瞬間でした。
写真で見ると、実際に見る「夜桜」はもっともっと本当にあでやかでした。

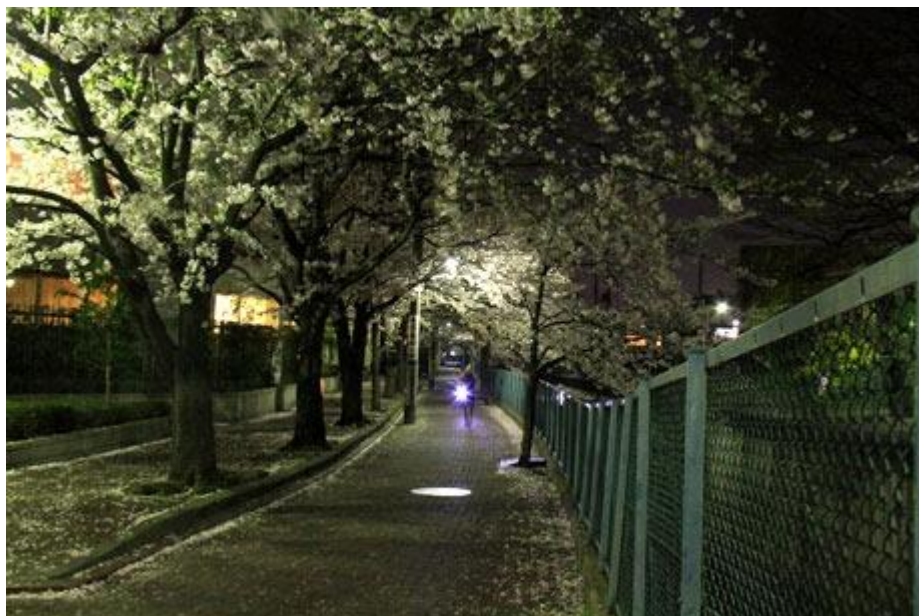


夜は更けていきます。
呑川沿いの桜並木も静けさを増していきます。

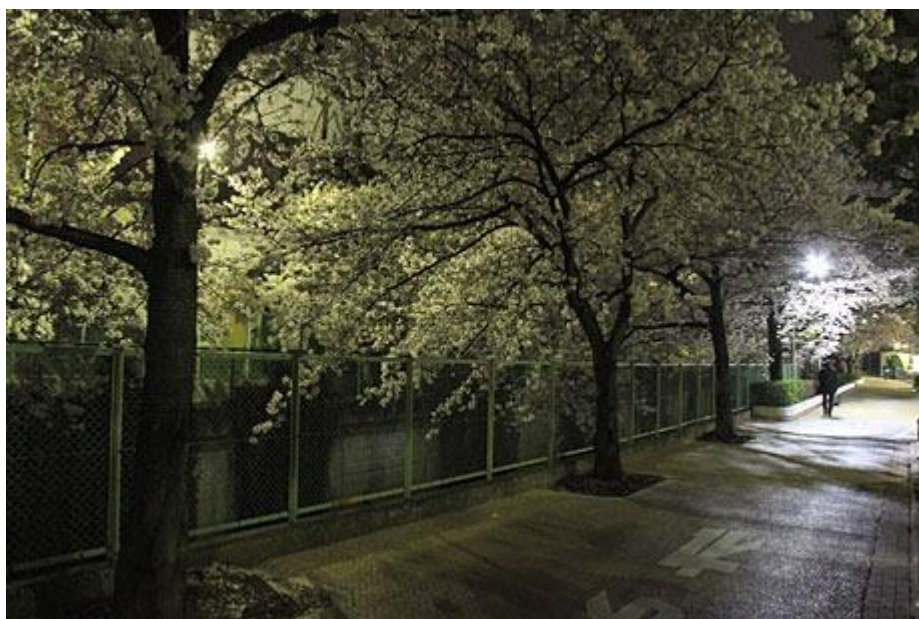
「川面」が写らない位置では、ここが「呑川沿い」であることが判りにくく
困ります。

なんとか呑川の「フェンス」を大きく取り込んで、らしさを出してみました。
しかし、だれも通らない寂しさは気になります。

「静か」であることを表現することと、それに「寂しさ」がただよってしまうことは
別ものだと思っています。



しばらく待つと、ようやく自転車がやって来て、そのランプが輝いています。
「静かさ」の中に、人の動きがあるとホッとします。



この通りの先、マンションの前の部分がグンと明るいのが判ります。

夜はますます更けて、人通りが途絶えがちになりますが、この明るい場所に来ると人影が浮かび上がります。

どんなに元気な若い人でも、この時間になれば疲れ切ってしまうのでしょう、とぼとぼ歩く姿を見ると、思わず「お疲れさま」と声を掛けたくくなります。同時に、あでやかに咲いた呑川の桜が、「元気出せよっ！」と声を掛けているのがはっきり聞こえた気がしたのです。まさに「都市河川」呑川ならではの情景です。

「千鳥ヶ淵の夜桜」は、例年、人で大賑わいです。大勢の人をさばくため「立ち止まらないでください！」と警備員がマイクで怒鳴り続けます。そこは、ゆったりと桜に酔いしれ、心を広げ、身体と心をリフレッシュさせる雰囲気とはかけ離れた喧噪です。

「千鳥ヶ淵」も素晴らしいところですが、来年は「呑川」の静かであでやかな「夜桜」も楽しんでみませんか・・・
都市河川「呑川」はとても魅力的な川です。

(当面の日程)

2012/5/3 (日) おおたく環境探検隊「苗作り(種まき)」
2012/5/8 (火) 呑川ネット・定例会 10時 生活センター 調理室
2012/5/19 (土) 呑川の会・世話人会 13:30 場所未定
2012/5/20 (日) おおたく環境探検隊「代掻きと苗の健康診断)」
2012/5/27 (日) おおたく環境探検隊「田植え」
2012/6/16 (土) 呑川の会・総会 15時 場所未定
このほかに「高濃度酸素処理水」実験結果報告会、「大田区との意見交換会」
「呑川生きもの調査」などが準備されています。

——photo essay by——

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
